

説明書（手術・麻酔）

私は、患者 様の手術・麻酔について次のとおりに説明しました。

1.現在の病状・手術の必要性・今後の見込み。

左慢性中耳炎による鼓膜穿孔のため、難聴があります。手術的治療が症状の改善に有効と思われます。術前の検査結果より鼓膜穿孔が治癒すれば治療の改善が期待されます。耳漏があった場合には耳漏は消失します。

2.手術の名称・方法

全身麻酔下左鼓室形成術

手術用顕微鏡を用いてすべての手術を行います。手術の目的は①鼓膜を再生させ鼓膜穿孔を治します。鼓膜再生の材料として耳の後ろにある側頭筋の表面の膜（筋膜）を用います。これを元に生きた鼓膜が再生されます。人工物を用いることはありません。②鼓膜を再生させることにより正常な中耳腔が出来上がり、中耳炎が治癒します。基本的にはこれで聴こえも改善します。耳漏も停止します。③手術時の観察により鼓膜に連なる音を伝えるための小さな骨(耳小骨)が障害されている場合にはその障害も改善することが必要になります。

皮膚切開は耳の後ろに行い、術後目立つことはありません。手術のために髪の毛を切ったり、剃ったりすることはありません。

個人差がありますが、術後1～2週間で鼓膜の再生が完成します。時に再生が遅延することがありますが、多くの場合感染によるものです。鼓膜の再生の状況に応じ通院の頻度が決まります。それに伴い原則として聴力が改善してきます。

手術は院長自らが行い、全身麻酔は麻酔科専門医が行います。

手術時間は1時間半前後。麻酔時間は2時間前後です。

3.上記に伴う合併症の可能性・危険性

①術直後の耳鳴・めまい：手術の操作の影響が内耳に及び起こります。頻度が高いものではありませんし、一過性のものがほとんどです。

②味覚障害：中耳を味覚の神経が通っているために、手術操作が及び味覚障害が起こることがあります。味覚障害が起こらないように慎重に手術します。病変の処理のため味覚の神経を切らざるを得ない場合がまれにあります。神経が切れない限り障害は一過性のことがほとんどです。

③切開創の感染：適切な術後処置を行うことにより感染を起こさないようにします。

④鼓膜の再穿孔：鼓膜の再生中に小さな穿孔が起こることがありますが、外来治療で閉鎖します。大きな鼓膜穿孔が起こることはまれです。その場合には外来で手直しの手術を行うこともあります。

平成 年 月 日

小林耳鼻咽喉科内科クリニック 院長小林謙

承諾書（手術・麻酔）

私は、現在の病状及び手術・麻酔の必要性とその内容、これに伴う危険性等について十分な説明を受け、理解しましたので、その実施を承諾します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適宜処置されことについても承諾します。

平成 18 年 7 月 20 日

患者氏名（署名）

同意者氏名（署名）

患者との続柄